

羅針盤			達成度			改善状況のまとめ	学校関係者評価	次年度の課題
評価対象	評価項目	具体的数値項目	①	②	総合			
I 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	① ICT教育を推進している本校の教育活動に積極的に取り組んでいると自己評価している生徒が75%以上である。	A	A	A	ICTを効果的に利用した教材研究を行い、授業改善に努める。運動部、文化部とも上位大会で活躍した。充実した部活動ができるよう学校全体で推進する。	普通教室にプロジェクタが設置され施設面が充実している。今後は、教員のICT研修を行い、効果的に活用する必要がある。	ICTを利用した授業展開や教育効果の検証を行いながら授業改善に努める。運動部、文化部とも上位大会で活躍した。充実した部活動ができるよう学校全体で推進する。
		②部活動を推進している本校の取り組みに所属生徒の75%以上が積極的である。	A	A	A			
II 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	2 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	③「授業が分かりやすい」と生徒の80%以上が答えている。	A	A	A	アンケート等を通じて生徒の実態把握をし、個に応じたきめ細かい指導の推進を図った。資格を取得することで進路の幅が広がることを意識させ、資格取得に意欲的に取り組めるような指導の継続を行った。	ただ覚えるだけの授業ではなく、教わった内容等を将来どのように生かしていくかを考えた授業展開をして欲しい。SNSの問題は、とても根深いものがある。教員側から禁止とするのではなく、なぜだめなのか子どもたちに考えさせ、子どもたちの言葉で発表することで効果が得られる。良い情報も悪い情報もSNS等から入ってくるので、指導が難しくなる。欠席する生徒が増えていることは、学校の流れがマイナス方向になりつつあるということでもある。生徒の動向に注意をする必要がある。具体的に何がなぜそうなったのか、生徒一人ひとりに寄り添った指導をすることでプラスの方向に向けて欲しい。	予習・復習への取り組みが出来ない生徒が多い。学習習慣を確立できるような対策を行う。生徒実態を把握し、個に応じたきめ細かい指導の推進を図る。多様化する生徒の情報を共有し、教職員の更なる連携とサポート体制の強化に努め、協力体制を整えていく。アンケートや面談等でいじめを早期発見し、対処を行ってきた。今後も問題が大きくなる前に芽を摘んでいく。家庭との連携を密にし、欠席・遅刻防止指導を実践していく。生活指導については、教職員の連携・協力と生徒情報の共有を密にし、粘り強い指導を継続する。
		④資格取得に向けた指導に生徒の85%以上が意欲的に取り組んでいる。	A	A	A			
	3 生徒は確かな学力を身につけていますか。	⑤学習に対する達成感・満足感をもっている生徒が75%以上である。	A	A	A			
		⑥全商関係の検定試験合格率が70%以上である。	C	C	C			
III 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	4 組織的・継続的な指導を行っていますか。	⑦学年会議・校務運営委員会・職員会議等で生徒に関する情報交換を毎週実施し、教職員の連携強化を図っている。	A	A	A	多様化する生徒の情報を共有し、教職員の更なる連携とサポート体制の強化に努め、協力体制を整えていく。また、保護者やスクールカウンセラーと連携して指導にあたる。SNS等によるいじめ問題の把握が難しいが、アンケートや面談等を通して早期発見、対処を行ってきた。朝読書や朝の玄関指導が遅刻防止に役立っている。生活指導については、教職員の連携・協力と情報交換を密にし、粘り強い指導を継続する。		
		⑧生徒会行事や各種専門委員会など、生徒会活動が充実していると評価した生徒が70%以上である。	A	A	A			
		⑨校内の美化・安全点検を各学期に1回以上実施している。	A	A	A			
		⑩「学校は、いじめ防止や早期発見に向けて取り組みを積極的に行っている」と認識している生徒が85%以上である。	A	B	B			
	5 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	⑪家庭との連携を密にして欠席率・遅刻率が1.0%以下である。	A	B	A			
		⑫挨拶や服装、遅刻防止指導など学校の生活指導は充実していると感じている生徒が85%以上である。	A	A	A			

羅針盤			達成度			改善状況のまとめ	学校関係者評価	次年度の課題
評価対象	評価項目	具体的数値項目	①	②	総合			
IV 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	6 計画的な指導を行っていますか。	⑬学校から提供される進路情報が役立っていると評価する生徒が80%以上である。	A	A	A	1学期に2・3年生を対象の進路ガイダンスを行い、具体的な進路について考える機会を増やした。また、「進路たより」を発行し、進路意識を高める情報発信を継続して行った。2年生の就業体験を含め、学年行事や学級活動、授業等において職業や生き方に係る学習を行った。	進路選択において、大学入学は、目的のための手段であることを考えさせて欲しい。商業高校の進路先を知ることは、中学生が進学先を検討する際に参考となっている。学校説明会やホームページなどで今後も情報提供をしてもらいたい。	1・2年生の進路意識を高めるため、今後も情報発信や進路計画を学年団と連携して進めていく。地元企業について知る機会であるビジネスマッチングフェアの参加に際し、企業に関しての理解を深めるため事前学習の充実を図る。
		⑭進路通信を年間10回以上発行し、生徒・保護者へタイムリーな情報を提供している。	A	A	A			
	7 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	⑮「自己の生き方」と「将来の職業」との関連について真剣に考えている生徒が80%以上である。	A	B	A			
		⑯進路実現に向けて積極的に取り組んでいる生徒が80%以上である。	B	B	B			
V 開かれた学校づくりに努めていますか。	8 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	⑰学年別保護者会に積極的に参加している保護者が95%以上である。	A	A	A	保護者会の出席率が1学年225/238で94.5%、2学年228/239で95.4%、3学年232/238で97.5%であった。ふれあいメールを利用し、生徒に配布したお知らせの周知を行った。学校行事や生徒の活躍の様子をホームページに掲載した。オープンスクールでの読み聞かせの会やカルチャー教室でのクリスマスケーキ作り・フラワーアレンジメントを通じて地域との交流を図った。	桐生市内の小中学校では、桐生を好きな子どもを育てる教育を行っている。桐商で行っている商品開発などは地域とつながりを大切にしているものである。今後も続けてもらいたい。地域の方々は、桐商だよりを楽しみにしている。今後も積極的に情報発信をして欲しい。	学校行事や生徒の活躍の様子をホームページに掲載。今後もホームページの充実を図り、情報発信を継続して行っていく。清瀬祭をとおして地域との結びつきをさらに深める工夫をする。オープンスクールでの読み聞かせの会やカルチャー教室でのクリスマスケーキ作り等を通じて地域との交流を図っていく。
		⑱学校説明会、オープンスクール、保護者参加事業等で学校の教育活動を理解できたと感じる参加者の割合が90%以上である。	A	B	B			